

1. 需給見通し

農林水産省は、「砂糖及びでん粉の価格調整に関する法律」(昭和40年法律第109号)により、でん粉に関して適切な価格調整を図るため、半期ごとにでん粉の需給見通しを公表している。9月に公表したでん粉の需給見通しの概要は、次の通り。

でん粉の需給見通し

【平成29でん粉年度 (見込み)】

需要量：269万2000トン (前年度比1.5%増)

供給量：270万2000トン (同1.5%増)

【平成30でん粉年度 (見通し)】

需要量：267万7000トン (同0.6%減)

供給量：269万7000トン (同0.2%減)

表1 でん粉の需給見通し

(単位：千トン)

		28でん粉年度	29でん粉年度		30でん粉年度			
		(実績)	(見込み)		(見通し)			
		計	10-3月	4-9月	計	10-3月	4-9月	計
需要	糖化製品	1,753	793	950	1,744	825	943	1,768
	化工でん粉	337	167	162	329	170	163	334
	その他(製紙用、ビール用、片栗粉など)	564	289	331	619	278	297	576
	合計	2,653			2,692			2,677
供給	前年度繰り越し	32			9			11
	国産いもでん粉(生産量)	190	208	—	208	217	—	217
	かんしょでん粉	39	29	—	29	31	—	31
	ばれいしょでん粉	151	179	—	179	186	—	186
	調整金 徴収 対象							
	コーンスターチ	2,271	1,058	1,254	2,312	1,086	1,210	2,296
	輸入でん粉 (糖化製品、化工でん粉用)	143	73	72	145	70	73	143
	輸入でん粉(その他用)	9	5	7	12	7	7	13
	小麦でん粉	17	8	9	17	8	9	17
	合計	2,662			2,702			2,697
	次年度繰り越し	9			11			20

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」

注1：でん粉年度とは、10月から翌9月まで。

注2：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

表2 国内産いもでん粉の需給見通し

(単位：千トン)

		30年10月～31年3月 (見通し)			31年4月～9月 (見通し)			30でん粉年度計			
		かんしょ でん粉	ばれいしょ でん粉	上期計	かんしょ でん粉	ばれいしょ でん粉	下期計	かんしょ でん粉	ばれいしょ でん粉	計	
需要	交付金 対象 用途	糖化製品	9	17	26	8	12	20	16	29	46
		化工でん粉	2	13	15	1	18	19	3	32	34
		その他	6	22	28	6	22	28	12	44	56
		小計	16	52	69	15	52	67	31	105	136
	その他の用途	0	34	34	0	38	38	0	73	73	
	計	16	86	103	15	91	105	31	177	208	
供給	前期からの繰り越し	4	7	11	19	107	125	4	7	11	
	生産量	31	186	217	0	0	0	31	186	217	
	計	35	193	228	19	107	125	35	193	228	
次期への繰り越し		19	107	125	4	16	20	4	16	20	

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」

注1：でん粉年度とは、10月から翌9月まで。

注2：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

注3：交付金対象用途の「その他」について

ばれいしょでん粉は、菓子類、麺類、水産練製品、冷凍調理食品、食肉製品、調味料、板紙（層間接着用）、水産養殖餌料などである。

かんしょでん粉は、菓子類、麺類、水産練製品、冷凍調理食品、食肉製品、建材などである。

注4：交付金対象用途外の「その他の用途」は、片栗粉などである。

(1) でん粉の需要量の見通し

用途ごとのでん粉の需要量の見通しは以下の通り。

【糖化用向けでん粉の需要量】

平成29でん粉年度は、前年度からわずかに減少の見込み

29でん粉年度は、上期は暖冬であった前年度と比較して気温が低い傾向にあったことから、前年同期比3万9000トン減、下期は異性化糖の需要期である夏場の気温が高い傾向にあることを踏まえ、同3万トン増と見込まれ、年度計では前年度を9000トン下回る174万4000トンと見込まれる。

30でん粉年度は、毎年の気象変動による影響はあるものの、平年並みに需要が回復するとみられ、前年度を2万4000トン上回る176万8000トンの見通しとなった。

【化工でん粉用向けでん粉の需要量】

平成29でん粉年度は、前年度からわずかに減少の見込み

29でん粉年度は、製紙向けの需要の減少が見込

まれることから、前年度を8000トン下回る32万9000トンと見込まれる。

30でん粉年度は、仕向け先ごとの需要の変動は想定されるものの、全体としては近年の需要がおおむね維持されるとみられ、前年度を5000トン上回る33万4000トンの見通しとなった。

【その他用途向けでん粉の需要量】

平成29でん粉年度は、前年度からかなりの程度増加の見込み

29でん粉年度は、段ボール向けなどの需要の増加が見込まれることから、前年度を5万6000トン上回る61万9000トンと見込まれる。

30でん粉年度は、仕向け先ごとの需要の変動は想定されるものの、全体としては近年の需要がおおむね維持されるとみられ、前年度を4万4000トン下回る57万6000トンの見通しとなった。

(2) でん粉の供給量の見通し

各種でん粉の供給量の見通しは以下の通り。

【かんしょでん粉の生産量】

平成29年産は、前年から大幅に減少

29年産の原料かんしょについては、植え付けの遅れや9月以降の日照不足および多雨などの影響により、かんしょでん粉の生産量は、前年を9000トン下回る過去最低の2万9000トンとなった。

30年産については、生育はおおむね順調に推移しているが、高齢化などにより作付面積の減少が見込まれることから、かんしょでん粉の生産量は前年を2000トン上回る3万1000トンと見込まれる。

【ばれいしょでん粉の生産量】

平成29年産は、前年から大幅に増加

29年産の原料ばれいしょについては、作柄が平年並みには届かなかったものの、台風による被害などのあった前年産を上回り、ばれいしょでん粉の生産量は前年を2万7000トン上回る17万9000トンとなった。

30年産については、生育が平年並みで推移していることから、ばれいしょでん粉の生産量は前年を8000トン上回る18万6000トンと見込まれる。

【コーンスターチの供給量】

平成29年でん粉年度は、前年度からわずかに増加の見込み

コーンスターチの原料となるトウモロコシ(2017年産)は、わが国のコーンスターチ用トウモロコシの過半を供給する米国において、前年から1400万トン減の3億7100万トンと見込まれているが、これまでの生産量と比較して高い水準が維持されていることから、必要量は安定的に供給されるものと見込まれる。

このため、29でん粉年度の供給量は需要に応じた供給がなされるものとして、でん粉ベースで前年度を4万トン上回る231万2000トンと見込まれる。

30でん粉年度については、2018年産の米国のトウモロコシ生産量が、前年から1000万トン減の3億6100万トンと見込まれているが、これまでの生産量と比較して高い水準が維持されていることから、必要量は安定的に供給されるものとみられ、229万6000トンと見込まれている。

【輸入でん粉の供給量】(糖化製品、化工でん粉用)

平成29でん粉年度は、前年度からわずかに増加の見込み

29でん粉年度は、需要に応じて安定的に輸入されるものとして、前年度を2000トン上回る14万5000トンと見込まれる。

30でん粉年度も、引き続き需要に応じた輸入がなされるとみられ、前年度を2000トン下回る14万3000トンの見通しとなった。

【輸入でん粉の供給量】(その他用)

平成29でん粉年度は、前年度から大幅な増加の見込み

29でん粉年度は、用途に応じた必要量が輸入されるものとして、前年度を3000トン上回る1万2000トンと見込まれる。

30でん粉年度は、昨今の需給動向を踏まえ、前年度を2000トン上回る1万3000トンの見通しとなった。

【小麦でん粉の供給量】

平成29でん粉年度は、前年度と同水準の見込み

小麦でん粉は、主に畜水産練製品向けとして供給されており、29でん粉年度は直近までの製造実績の傾向から1万7000トンと見込まれる。

30でん粉年度についても、安定した供給がなされると見込まれ、1万7000トンの見通しとなった。

2. 輸入動向

【タピオカでん粉の輸入動向】

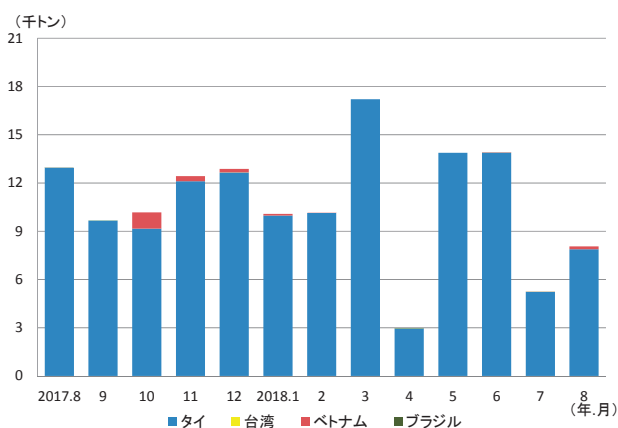
8月の輸入量は前年同月から大幅に減少

財務省「貿易統計」によると、2018年8月のタピオカでん粉の輸入量は、8056トン（前年同月比37.8%減、前月比53.7%増）と、前年同月から大幅に減少した（図1）。

輸入先国はタイおよびベトナムの2カ国で、輸入量は次の通りであった。

タイ	7879トン
（前年同月比39.1%減、前月比50.5%増）	
ベトナム	177トン
（前年同月輸入実績なし、同92.1倍）	

図1 タピオカでん粉の国別輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」

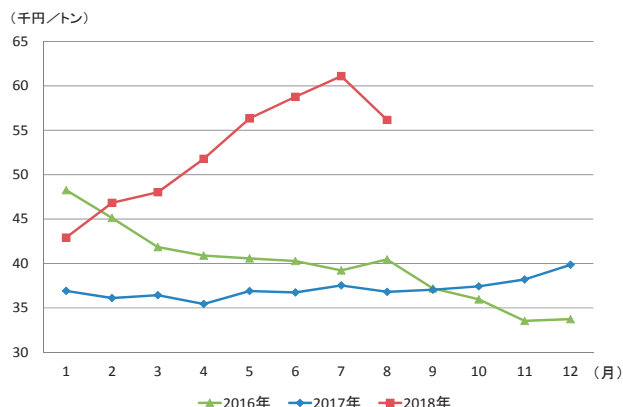
注：HSコード1108.14-010、1108.14-020、1108.14-090

2018年8月の1トン当たりの輸入価格は、5万6163円（前年同月比52.6%高、前月比8.1%安）と、前年同月から大幅に上昇した（図2）。

国別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

タイ	5万6273円
（前年同月比53.2%高、前月比7.7%安）	
ベトナム	5万1256円
（前年同月輸入実績なし、同81.3%安）	

図2 タピオカでん粉の月別輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」

注：HSコード1108.14-010、1108.14-020、1108.14-090

【サゴでん粉の輸入動向】

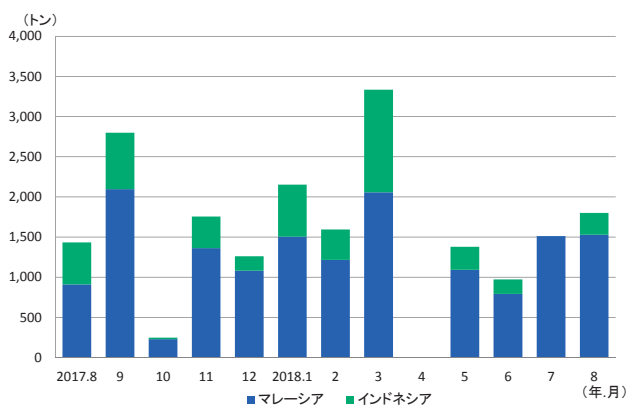
8月の輸入量は前年同月および前月から大幅に増加

財務省「貿易統計」によると、2018年8月のサゴでん粉の輸入量は、1800トン（前年同月比25.6%増、前月比19.0%増）と、前年同月および前月から大幅に増加となった（図3）。

輸入先国はマレーシアおよびインドネシアの2カ国で、輸入量は次の通りであった。

マレーシア	1530トン
（前年同月比68.0%増、前月比1.2%増）	
インドネシア	270トン
（同48.3%減、前月輸入実績なし）	

図3 サゴでん粉の国別輸入量の推移



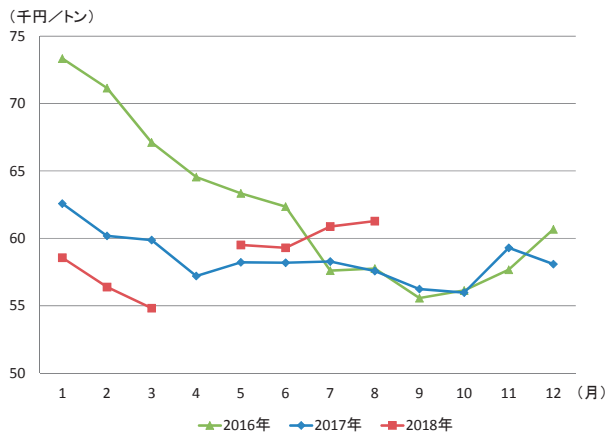
資料：財務省「貿易統計」

注1：HSコード1108.19-011、1108.19-012、1108.19-019

注2：2018年4月のサゴでん粉は輸入実績なし。

2018年8月の1トン当たりの輸入価格は、6万1278円（前年同月比6.4%高、前月比0.7%高）と、前年同月からかなりの程度上昇した（図4）。

図4 サゴでん粉の月別輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」

注1：HSコード1108.19-011、1108.19-012、1108.19-019

注2：2018年4月のサゴでん粉は輸入実績なし。

【ばれいしょでん粉の輸入動向】

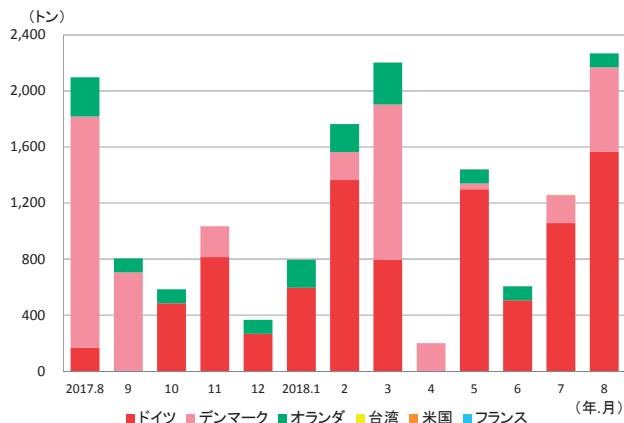
8月の輸入量は前月から大幅に増加

財務省「貿易統計」によると、2018年8月のばれいしょでん粉の輸入量は、2269トン（前年同月比8.1%増、前月比80.3%増）と、前月から大幅に増加した（図5）。

輸入先国は、ドイツ、デンマークおよびオランダの3カ国で、国別の輸入量は次の通りであった。

ドイツ	1565トン
	（前年同月比9.4倍、前月比48.2%増）
デンマーク	604トン
	（同63.4%減、同3.0倍）
オランダ	100トン
	（同64.3%減、前月輸入実績なし）

図5 ばれいしょでん粉の国別輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」

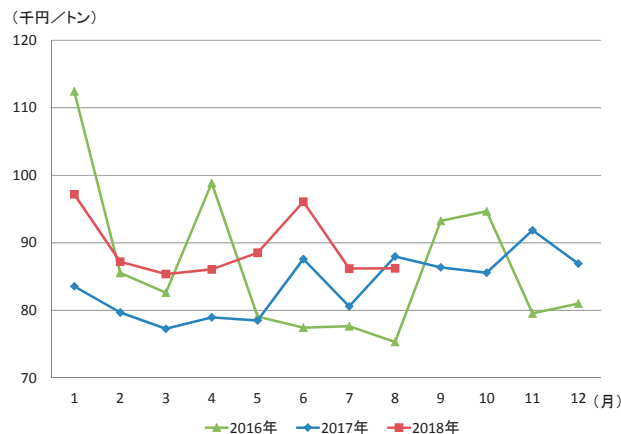
注：HSコード1108.13-010、1108.13-020、1108.13-090

2018年8月の1トン当たりの輸入価格は、8万6244円（前年同月比2.0%安、前月比0.1%高）と、前月からわずかに上昇した（図6）。

国別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

ドイツ	8万7547円
	（前年同月比28.2%安、前月比1.4%高）
デンマーク	8万3480円
	（同1.6%安、同0.2%高）
オランダ	8万2540円
	（同4.5%安、前月輸入実績なし）

図6 ばれいしょでん粉の月別輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」

注：HSコード1108.13-010、1108.13-020、1108.13-090

【でん粉誘導体の輸入動向】

8月の輸入量は前月から大幅に減少

財務省「貿易統計」によると、2018年8月のでん粉誘導体の輸入量は、3万2726トン（前年同月比0.1%増、前月比30.3%減）と、前月から大幅に減少した（図7）。

でん粉誘導体の輸入先国は19カ国で、最大の輸入先国はタイであった。主要輸入先国からの輸入量は次の通りで、タイが輸入量の約7割を占めており、次いで中国、ベトナムとなっている。

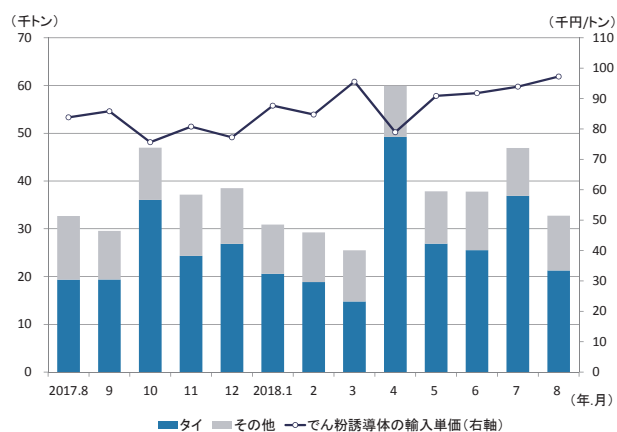
表3 でん粉誘導体の主要輸入先国および輸入量（8月）

輸入先国	輸入量（トン）	シェア（%）
合計	32,726	100.0
うち タイ	21,280	65.0
中国	2,334	7.1
ベトナム	1,597	4.9
フランス	1,582	4.8
豪州	1,479	4.5
米国	1,431	4.4

資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード3505.10-100

2018年8月の1トン当たりの輸入価格は、9万7236円（前年同月比16.0%高、前月比3.6%高）と、前年同月から大幅に上昇した。

図7 でん粉誘導体の輸入量および輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード3505.10-100

【デキストリンの輸入動向】

8月の輸入量は前月から大幅に増加

財務省「貿易統計」によると、2018年8月のデキストリンの輸入量は、1222トン（前年同月比16.6%減、前月比43.8%増）と、前月から大幅に増加した（図8）。

デキストリンの輸入先国は10カ国で、デキストリンの輸入量は、上位輸入先国の数量および各国のシェアも含め、月ごとの変動が大きい。

上位輸入先国からの輸入量は次の通りで、タイ、ベルギーおよび米国の3カ国で輸入量の約8割を占めている。

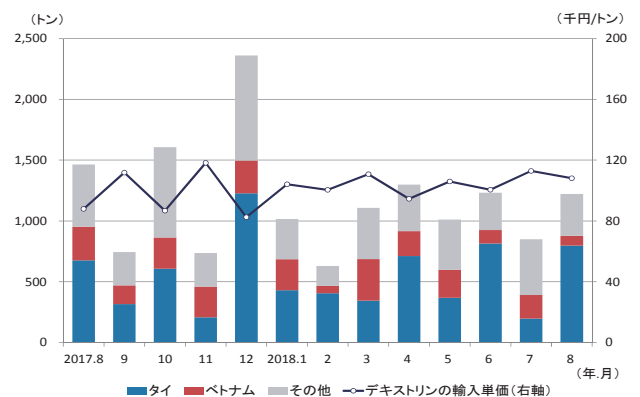
表4 デキストリンの主要輸入先国および輸入量（8月）

輸入先国	輸入量（トン）	シェア（%）
合計	1,222	100.0
うち タイ	798	65.3
ベルギー	126	10.3
米国	87	7.1
ベトナム	80	6.5
オランダ	50	4.1

資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード3505.10-200

2018年8月の1トン当たりの輸入価格は、10万8089円（前年同月比22.9%高、前月比4.2%安）と、前月からやや下落した。

図8 デキストリンの輸入量および輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード3505.10-200

【コーンスターチ用トウモロコシの輸入動向】 8月の輸入量は前年同月からわずかに減少

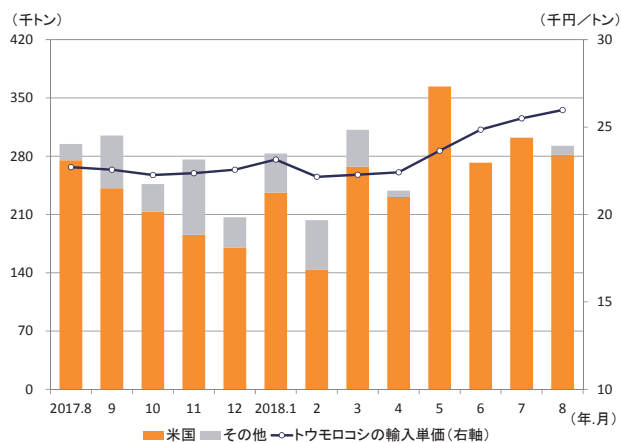
財務省「貿易統計」によると、2018年8月のコーンスターチ用トウモロコシの輸入量は、29万2507トン（前年同月比0.8%減、前月比3.3%減）となり、前年同月からわずかに減少した（図9）。

輸入先国は、米国が約9割以上を占め、次いで南アフリカ、豪州となっている。国別の輸入量は次の通りであった。

米国	28万1867トン
	（前年同月比2.5%増、前月比6.8%減）
南アフリカ	9720トン
	（同50.8%減、前月輸入実績なし）
豪州	920トン
	（前年同月および前月輸入実績なし）

2018年8月の1トン当たりの輸入価格は、2万5975円（前年同月比14.4%高、前月比1.9%高）と、前年同月からかなり大きく上昇した。

図9 コーンスターチ用トウモロコシの輸入量
および輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1005.90-091